

▼フレンズコーナー

自転車とレールで風になる

「レールマウンテンバイク Gattan Go!!」

～廃線の鉄道遺構を「限りなく、そのままの形」で利活用！～

NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク 理事長
鈴木 進悟

「廃線」というと皆さんは何を思い浮かべますか？普通なら、廃線にならないための保存活動から始まり、住民に惜しまれつつ最後のラストラン、そして撤去工事までの、少し悲しいドラマが一般的ではないかと思います。私たちの町・岐阜県飛騨市神岡町の廃線は、「廃線になってから」が勝負の物語。単純な保存活動から新感覚の観光へと舵を切った、ちょっと変わった廃線です。

かつて、私たちの町（岐阜県飛騨市神岡町）に走っていた旧神岡鉄道が廃線になったのは 2006 年 12 月。鉄道の収益の 9 割を占める鉱山からの貨物輸送がすべてトラック輸送に切り替えられ、国鉄時代に敷かれた軌道は、ひっそりとその役目を終えることとなりました。

豪雪地帯の生活と鉱山の町としての生業を支え続けたこの神岡鉄道は、全線の約 6 割をトンネルが占め、山間の渓谷をゆく「奥飛騨の地下鉄」として鉄道ファンにも親しまれた鉄道でした。実際に昭和の豪雪時（五六豪雪・昭和 56 年）には、国道が 1 か月にわたり通行止めとなりましたが、神岡の鉄道は 1 日も休まず走り続けて町の暮らしを守りました。その姿は地域住民にとっての「心の財産」として今なお語り継がれる伝説でもあります。



●旧・神岡鉄道ラストサンデー

『このかけがえのない、我が町の鉄道が廃線になる。町の生命線として存在した神岡鉄道に感謝と敬意を伝え続けるために、廃線の後に残される駅舎・レール・トンネル・橋梁の全てを「限りなく、そのままの形で」使いながら、鉱山の町・神岡を元気にするような事業ができないか？』廃線前夜の神岡鉄道協力会（有志のボランティア団体）はアイデアを募り、様々な利活用策を検討しました。しかし、どのアイデアも、どこかで聞いたことがある割には開業するためのノウハウや資金が乏しく、着手するには遠い道のりのものばかり。その中で唯一、誰も見たことのない、想像もつかないような奇抜なアイデアが、「レールマウンテンバイク Gattan Go!!」でした。



●これが「レールマウンテンバイク」